

「ならず者が支配する 世界」変えなくては！

参院選で政府代える 札幌駅前パレスチナ集会

参院選「ラスト・サンデー」となった13日、札幌駅前で行われた「パレスチナの命を救え」アクション。

かんかん照りのなか、ガザで重ねられるイスラエル軍による住民虐殺、米トランプ政権のイスラエル「支援」に抗議するたくさんの市民、旅行者が「赤い涙」を描くペンを取り、マイクを握り、「もう誰も殺さないで」「パレスチナの命を救わなくては！」と訴えました（写真）

みなさんの声は届きます！

かんかん照りのなか、1時間にわたったスピーチの最後は、少女を連れ、ベビーカーに赤ちゃんを乗せたエジプト出身のハビーバさんでした。「みなさんのこの行動は、パレスチナの人にきっと伝わります。イスラエルの支配に追

いつめられている人をどれだけ励ましているか。あきらめないで続けて下さい。声を上げ続けて」と…。

「世界は黙っていない」「アメリカ言いなりダメの審判を参院選で」

国連特別報告者フランチェスカさんに「制裁」というトランプ政権。ICC（国際刑事裁判所）やその裁判官、ハーバードをはじめとする米国内の有名大学など、ガザでのイスラエルの残虐行為を批判する国際機関とその構成員のことごとくに「反ユダヤ主義」のレッテルを貼り「制裁」で脅迫するその振る舞いにも厳しい批判が。

「人々を恐怖で支配しようとするマフィアのやり方と同じ」「国連のシステムそのものへの攻撃」「国際的に確立された正義の原則を死滅させる」とも言われる「ならず者」国家というほかない振る舞いです。

13日の集会では、それに対し「世界は黙っていない！それを今日、僕たちも声にした」「日曜に投票日を迎える参院選はビッグチャンス。そのアメリカに何も言わず付き従う政府を代える選挙だと何人もが。「世界をならず者の支配するままにさせないために、「日本を変えなくては！」と訴えました」



「改憲・軍拡・核共有 NO!」「戦争しない日本に 1 票!」の声を広げるいっせいアクションを心からよびかけます。

昨年の総裁選で「核共有」「アジア版 NATO 創設」に言及。今年 2 月の米トランプ大統領との会談・共同声明で「日米同盟の抑止力と対処力をさらに強化」と、軍備拡大継続を誓約した石破首相は、「戦争しない」あり方も、世界唯一の戦争被爆国として掲げてきた「非核 3 原則」も投げ捨て、「戦争する国」となる新たな危険に向かおうとしています。

「平和主義を投げ捨てて、軍事大国へーこの道を進んでいいのでしょうか？」と問う参院選です。

国会の憲法審査会での「改憲条文起草委員会」設置提案(自民)や「臨時国会招集期限」などでの「改憲」論(維新)など、大軍拡とともに明文改憲の動きも強まるなか、自公維新国民参政保守など、「改憲派」を参院でも 2/3 未満に少数化するたたかいは待ったなしです。

* 「軍拡 NO!」リーフも在庫があります! 連絡ください。

#参院選はチャンス

#ならず者の世界にさせない

#イスラエルの民族浄化作戦を許さない

#世界は黙っていない

#まず日本を変える

#黙らない政府に代える

#平和を言う政府に変える

#全世界の国民がひとしく恐怖と欠乏から免かれ平和のうちに生存する権利を有することを確認する憲法を活かす政府に代える!

●月末の「パレスチナに平和を!」7/27(日)札幌行動へ! (午後1時札幌駅南口。集会後デモ行進)